

ディスコグラフィアー掲載

ディスコグラフィアー【2024No.200】(HP 掲載)

分類：アナログ

作曲家：ベートーヴェン

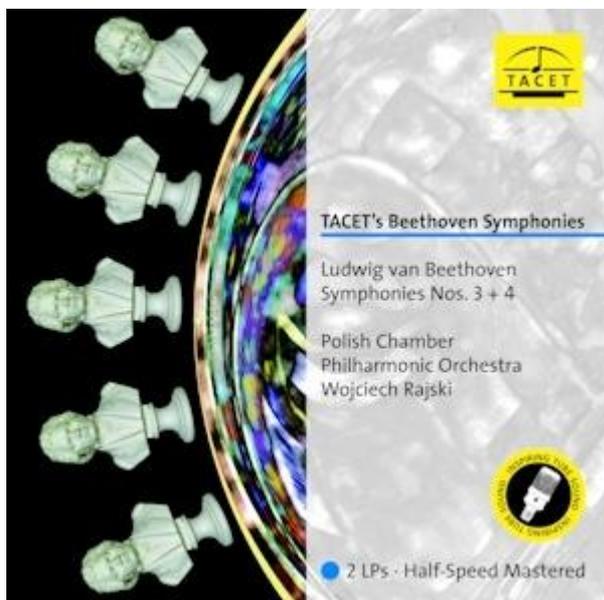
曲名：交響曲 3 番・交響曲 4 番

演奏：Wojciech Rajski(ヴォイチェフ・ライスキ)指揮ポーランド室内フィルハーモニー
管弦楽団:

発売：TACET

No. : TACET 239

概要：



【演奏】

Wojciech Rajski(ヴォイチェフ・ライスキ)指揮ポーランド室内フィルハーモニー管弦楽団:

【収録】

2 LPs 1

Side1

Symphony No. 3 in E flat major op. 55

1.Allegro con brio

Side2

2.Marcia funebre. Adagio assai

3.Scherzo. Allegro vivace

Side3

4. Finale. Allegro molto

Symphony No. 4 in B flat major op. 60

1. Adagio - Allegro vivace

Side4

2. Adagio

3. Allegro molto e vivace - un poco meno allegro

4. Allegro ma non troppo

大阪ハイエンドオーディオショウ 2024 に行って求めてきたものです。

感動的なチューブサウンド、ハーフスピードマスターリングとの記載があります。

チューブサウンドは、真空管マイクのノイマン M49 が使用されていること、ハーフスピードマスターリングは、マスターリングがハーフスピードで行われていることを指しています。

2009 年ポーランドの教会での録音、フランクフルトでのカットニングで、2017 年発売です。

今回も、LP-12 のフォノケーブルのバランス化とレコードアンチスタティックの適用に加えて、Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用してみます。

TACET レーベルは、ZANDEN のリストにありませんが、最近の録音ですので、RIAA、N、第 4 時定数 High の条件から聴き始めましたところ、違和感はありません。

交響曲 3 番は、前報(2024No.199)同様、Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用していますので、緻密で、ピアニッシモからフォルテッシモまで破綻なく、緩急、抑揚も的確に表現してくれています。演奏は、切れが良く躍動的な第 1 楽章も、ゆったりとして荘重な第 2 楽章も、軽快な第 4 楽章も、各パートのオーソドックスな表情を見せていながら、ダイナミックレンジが十分にとれた演奏です。

交響曲 4 番は、3 番と 5 番に挟まれて地味な存在ですが、Magic Mat II を使用していることもあり、真空管マイクとハーフスピードマスターリングの効果で、躍動的で緻密な音でベートーヴェンらしさが現れています。

以上